

保存版

ムカデ マムシ スズメバチ

対処法・手当て 徹底研究

特派員報告

いながわ



松永 ひさみ



久保田 由美

気温と湿度が高くなるこれからの季節、突然出現してギョッとさせられるのがムカデです。そして、初夏から秋にかけて野外で気になるのが、スズメバチやマムシ。いずれも毒があり、刺されたり咬まれたりすると腫れや痛みに苦しみます。ひどい時は命の危険も...

そこで今回は、それらの対処法と、被害にあった時の手当てについて特集します。ぜひ、お役立てください。

危険な生き物に遭遇した時は？

豊かな自然の中には、人間にとって危険な生き物も生存しています。その中で、町内で遭遇する可能性のあるマムシ・ムカデ・スズメバチから身を守るにはどのような準備をすればよいのか、そして遭遇した時どのように対処したらよいのかを、「猪名川山岳会」会長の田中義一さんに尋ねました。



「猪名川山岳会」会長の田中義一さん

野山を歩く時は

襟のついた長袖の上衣と長ズボンを着用し、サンダルではなく靴を履くことが基本です。帽子や軍手を用い、肌の露出を少なくしましょう。スズメバチは、自分と同色である黄色と黒に反応するという報告もあるので、服や帽子の色にも注意しましょう。

ペットボトルなどに水を入れて携帯していると、被害にあった時、傷口を洗浄するのに役立ちます。

こんな所に注意

木の洞にスズメバチが巣を作っていたり、落ち葉の中にムカデ、草むらの中にマムシが潜んでいたります。むやみに手をつっこんだり足を踏

スズメバチ



体長3～5cm、黄色またはオレンジと、黒の縞模様のハチ。毒針を持つのはメスのみ。

【症状】

傷口は真っ赤に腫れ上がり、熱をもって激痛に襲われる。特にハチに対するアレルギー体質の人は、刺された直後から、じんましん・呼吸困難・血圧低下・吐き気・頭痛・意識障害などのアナフィラキシーショックという全身症状が表れ、死に至るこ

ともある。刺された直後、少しでも体に異変を感じたら早急に医療機関に行く、あるいは救急車を呼ぶ。

【手当て】

針が残っていたらピンセットなどでとり、傷口から毒を吸い出し、流水で冷やす。また、毒の回りを早めるので、患部は揉まない。アウトドア用品店では、毒を吸い上げる携帯用器具も売られている。

【注意事項】

一度ハチに刺されたことがある人は、次に刺された時に症状が強く出ることがあるため注意が必要。ハチ毒に対するアレルギーの有無は、血液検査で調べることができる。また、必要があればアナフィラキシーショックを緩和する注射製剤を処方してもらえらる。

咬まれた！刺された！その時は？

体力のない老人や子どもは症状が重症化しがちなので、早急な処置が必要です。口での毒の吸出しは、口腔内に傷があったり、虫歯があったりすると危険なので注意しましょう。



坂田哲啓先生

ムカデ・マムシ・スズメバチの被害にあった場合の、それぞれの症状や手当てについて、生にお話を伺いました。

マムシ



体長40～60cm、「銭型」模様のある赤褐色の毒ヘビ。頭は矢じり形。

【症状】

咬まれると数分後には激しい痛みと腫れが生じる。

【手当て】

まず流水で傷口を洗い、できるだけ汚血を出す。その後、咬まれ

た部分から1関節身体に近い方を縛る。走ったりすると早く毒が全身に回るので、慌てず冷静に医療機関に行き、不潔な歯牙による破傷風対策、血管内脱水に対する点滴、マムシ毒の対処として血清かセファランチンの投薬を受ける。その際、一般的なアレルギー疾患がある場合や、以前マムシに咬まれたことがある場合はそれを医師に伝える。

「ヤマカガシ」について

黒褐色の毒ヘビ「ヤマカガシ（体長60～120cm）」に咬まれた場合、痛みや腫れはあまりないが、数時間経ってから出血し出すので、早めに病院で手当てを受ける。

ムカデ



体長1～30cm、赤褐色や暗褐色の細長い体と多くの脚を持つ節足動物。つがいで行動しているという説もある。

【症状】

咬まれると激痛と腫れ・炎症をおこす。

【手当て】

傷口を絞って毒を出し、流水で

洗い流す。抗ヒスタミン剤やステロイド剤の入った軟こうを塗る。痛みが強いときには医療機関に行く。毒性はあまり強くないので、重症化しにくい。

先人の知恵「ムカデ油」

虫刺され、火傷などの民間療法として「ムカデ油」は、昔から多くの人に利用されています。

そのムカデ油を子どもの頃から愛用されている、島在住の平尾千賀さんに「自家製ムカデ油」を見せていただきました。ガラスビンの中の油に数匹のムカデが沈み、蓋を開けると、鼻を突く強烈な臭いがします。三年物というそのムカデ油には、そのつど油やムカデを足しているそうです。平尾さんは「ムカデに咬まれた時やハチに刺された時、ムカデ油を塗ると腫



「わが家の大切な薬」と話す平尾さん

《ムカデ油の作り方》

空きビンに食用油を多めに入れる。

その中に生きたままのムカデを火鉢などでつまんで入れる。

2カ月以上放置してできあがり。

長い年月が経つと、ムカデは溶けて、全体に黒い液体になる

後編 記集



今回は、一般的な対処法と手当てを紹介しました。しかし、現実には予測出来ないようなアクシデントも起こります。おとなしいといわれているマムシが、木

の上から飛んで人に噛み付いたという事例もあります。また、被害にあった時に予想とは違う症状が表れる場合もあります。どんな時でも慌てずに、冷静に対応することが大切です。

【いながわ特派員】